



其の三
東郷平八郎(上)

ある武道家の方からとても興味深い話を聞きました。

それは戦前のこと、合気道開祖・植芝盛平のところへ「一手教授乞う」との挑戦状が舞い込んだそうです。

武道界がまだ荒々しかった時代です。道場破りに相違なく、私闘は命懸けになることは必定で、その上に相手の名を知って門弟一同、ゾッと青ざめたそうです。相手は古武術を修め、柔道日本一の覇者、若き日の木村政彦(戦後、力道山とタッグを組み、プロレス人気を巻き起こした武闘家)です。木村は格闘のための肉の鎧を着込んだような武闘家。対する植芝は少年のような身体の武道家。身長差は30センチ以上、体重差は40キロ以上あったと思われれます。

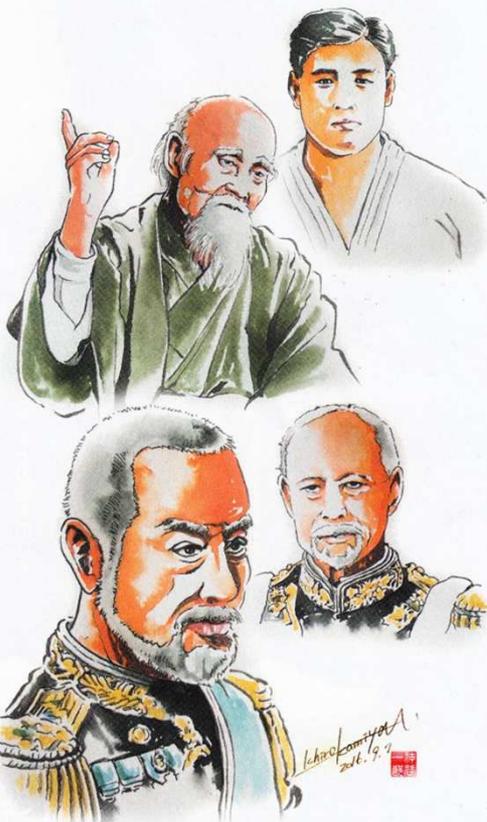
植芝は恬淡としてその申し出を受け、その日を道場で待ったそうです。ついにその日、木村は現われなかったそうです。理由は判りません。

今もって謎だそうです。反故にしたのは木村です。植芝はここで、高らかに勝利を謳ってもよかったです。以後その事を口にはしなかったそうです。興奮醒めやらぬ弟子どもは師に余程の勝利の確信があったと見て、いかな秘術をもって木村を倒すつもりであったか、恐る恐る尋ねたそうです。

「東郷は運がよろしゅうございます」
司令長官に抜擢された「運」とは？

返事はただのひとこと。「私は運が強い」とのみ。それ以外、何も語らなかったそうです。

このエピソードを聞いた時、ピタリと重なる歴史秘話を思い出しました。御存知の方も多いでしょう。時をさかのぼって、明治、日露開戦直前の秘話です。世界最大のロシアバルチック艦隊を迎撃すべく時の海軍大



臣・山本権兵衛が日本連合艦隊の司令長官に任じたのは、定年直前の五十五歳の東郷平八郎でした。

当時でいえば老人の年齢です。いささか不安に感じられた明治帝はさすがに「何故、東郷か」と下問されたそうです。その山本海相の返事が「東郷は運がよろしゅうございます」と。

どうもふたりの武人が語った

「運」は私どもが日常使う「運」とは違うようです。そのことを尋ねると、その武道家の方、しきりにうなずかれ「ふつうの人は運を追いかけますが、極意に達した者は運を従えます」と断言なさいました。

「運を従える」とは聞いたことのない言葉です。それが一体どのような光景なのか。次号で、運を従えた東郷平八郎の幕末の姿をお伝えします。ツカミで終わってすみません。今回は運が悪いと諦めてお付き合い下さい。

【武田鉄矢】
1949年、福岡県生まれ。バンド「海援隊」のボーカル、俳優、タレントとして活躍中。おもな出演作に映画「幸福の黄色いハンカチ」、ドラマ「3年B組金八先生」シリーズ。著書に「私塾・坂本竜馬」など。現在、BSジャパン「武田鉄矢の昭和は輝いていた」に出演中。